

大谷中学校区合同 学校運営協議会 議事録
(令和 8 年度 第 1 回)

1 日時 令和 8 年 6 月 18 日 (木) 15 : 00～17 : 00

2 場所 海老名市立大谷中学校 図書室

3 出席委員

【大谷中学校】

村松かおり委員長、秋庭博行副委員長、洞口交子委員、
大塚真樹委員、重岡慎一郎委員、鈴木剛委員、
吉田守委員、小林丈記校長

【大谷小学校】

石井正雄委員長、桐生行雄委員、鈴木竜也委員、大乘文哉委員、
ホーランド佳奈委員、古畑恒校長、山田直子総括教諭

【杉久保小学校】

伊藤健三委員長、山口勝広委員、金子由美子委員、佐藤憲一委員、
和田波代校長、山田優総括教諭、東優也教諭

この他、杉山泰士総括教諭、野村友紹総括教諭（大谷中）、岩瀬歩総括教諭、宮本亮佑教諭（大谷小）、阿部善竹教諭（杉久保小）が参加。

4 会議の内容

(1) はじめに

小林校長より挨拶。その後、グループ別にアイスブレイク（兼自己紹介）が行われた。

(2) 令和 9 年度施行「大谷中学校区学校教育目標」策定の経緯

小林校長：現行の学校教育目標から改定に向けた経緯について説明。平成 29 年度から 10 年間の時限付きのものとして「自立・夢を拓く人」として策定。社会全体の背景、子どもたちをはじめとする取り巻く環境の変化、中央教育審議会での議論、学習指導要領改訂に向けた動きなどを受け、ニーズに合ったものに更新し、策定していきたい。

新しい学校教育目標の理念「社会を創り、未来を拓く」を掲げ、「自律」「共生」「協働」「探究」の 4 つの学校運営の柱を設定。それらについて、和田校長、小林校長、島仲教育支援課長（前 大谷小学校長）から趣旨説明がなされた。

(3) 4つのワーキンググループ（以下、WG）からの進捗及び今後の議論の方向性の報告

宮本教諭：（自律 WG）「自己を見つめ、高める力」、「社会と関わり、行動する力」、「未来をデザインする力」について、自己決定力を育む必要性、自己調整のための自己認知・自己理解の必要性を確認。9年間の発達段階に応じた支援策や選択肢について考えていかなければならない。「自己を見つめ、高める力」に重点を置き、マズローの欲求階層などの理論も取り入れながら、自律を育む目標項目の関連を整理する。その際、具体的な取り組みとして実践しやすいように留意することを確認し、他の WG との関連についても考える。

阿部教諭：（共生 WG）「ともに認め合う（多様性の尊重）インクルーシブな学校」を考えるにあたり、目指す子ども像を「多様性を尊重し、共に生きる子ども」と定め、9年間の学びを整理していくこととした。「自分と他者との違い」、「様々な他者がいることへの理解」、「集団及び自分の気持ちに折り合いをつけること」、「自治」の4つの視点から、取り組みにおける場面や支援の手立てについて話し合いを重ねている。違いのよさやそれを知ることによって相手を大切にすること、自他の気持ちを大切にすること、自分たちの力でよりよい集団や生活を形成することについて、授業や行事での学びを通して経験を積み重ねていくことが大切だと考えている。

東 教 諭：（協働 WG）学校と地域が連携・協働した学びづくりが求められる。育てたい資質・能力に「郷土愛や地域に貢献する力」を第一に挙げ、それを支える「尊重する力」、「コミュニケーション力」、「協働する力」を段階的に育てる方向性を議論した。地域のよさを知るきっかけとしての「出会う／知る」段階、自分事に引きつけて学びを広げるための「体験する／やってみる」段階、社会に貢献する意識や未来を拓く心構えをつくるための「協働／貢献／担う」段階の3段階で学びを整理していく予定。

野村総括教諭：（探究 WG）探究についての捉えを議論。「裁量の時間」を生み出すことで、子どもたちが試行錯誤できる学びの環境を保証するための『余白』の重要性、学校の中で完結しない学びづくりのための「地域社会との接続」、他者と協働して課題を解決する力を身につけるための「9年間の系統性」の3つの視点でさらに議論を深めていく。学校運営協議会の委員をはじめ、地域の方々に学びの伴走者として関わっていただき、学びづくりを進めていきたい。

(4) グループ協議 (A～F の 6 グループ)

「それぞれの下位目標について、それぞれの立場で何をしたいか、どんな子どもを育てたいか」

25 分のグループ協議の後、代表グループより全体共有がなされた。

鈴木竜也委員：家での子どもの姿から、時間を管理したり、逆算して考えたりする力に課題を感じている。また、発信されていることをちゃんと受信しているのかが疑問であるため、学校から出される便りを話題にしながら子どもと学校のことや自分自身について話す機会をつくることが大切になると思う。頭では理解しつつもなかなか行動に移せない現状やついつい誘惑に負けてしまう所を「言われなくてもやる」という実行力につなげてほしい。中学校で職場体験があると思うが、もっと社会を知る、ビジネスや仕事を経験する学びの場が必要だと思う。授業やテストなど、学校での勉強は大事だが、社会やその仕組みを知らないで大人になることを懸念している。昨年度の大谷小学校の総合の実践のように、考えたことを実現できる経験や自己有用性を高めることにつながる学習が必要であると思う。

海老名市フルインクルーシブ教育「対話の場」が海老名市教育委員会主催のもと行われた。海老名市教育委員会より、伊藤教育長、島仲教育支援課長、小菌教育支援センター所長、豊山指導主事、平田指導主事、神奈川県教育委員会より石井インクルーシブ教育推進課長の来校のもと、県及び市が推進するフルインクルーシブ教育についての概要、各種取り組みについて説明があった。また、市内の学校における環境整備や市推進ビジョンと 5 年間の取り組み計画、様々な立場の方々との「対話の場」の実践が話題として挙げられた。その後、豊山指導主事より、インデックス フォー インクルージョン Index for Inclusion (インクルージョンの指針) について説明があり、問いに対する対話をもとに気づいたことを改善していくことを目的に、グループワークを実施した。「当たり前」を見つめること、「参加」とは何かについて考え直すこと、「こどもの声」について考えること、それぞれの立場から考えたことを話し合うことの重要性を確認した。

(5) おわりに

古畑校長：今は変化の激しい時代だが、何年経っても変わらない子どもの姿もある。これからの時代を生き抜く子どもたちのために学校と地域が協力していきたい。引き続きご協力をお願いしたい。

(6) その他

次回の、第 2 回大谷中学校区合同学校運営協議会は、翌年 2 月～3 月で実施予定。開催場所は大谷中学校を予定。